

とてもおいしいぶどう

六年 伊藤 彩

私は、六年生になってぶどうを作ることを知りました。私は、「今年は私たちが安芸クイーンを作るのか。おいしいぶどうをいっぱい作って、いっぱい食べたいな。」とずっと思っていました。

そして、ついにぶどう作りが始まりました。最初の仕事は、まだ小さなぶどうを先の方だけ残すというものでした。

その仕事をしてみると、実がすべて落ちてしまいました。先だけ残すというのは、とても難しく、なかなか上手にできませんでした。難しかったので、実をとつてもなくしんちょうに落としていくと、きれいではないけれど、けっこう上手くできました。

その後からは、ちよつとコツをつかんだのか、ぶどうの先の方をちやんと残すことができるようになりました。上手にできた時は、とてもうれしかったです。

それからしばらくして、ぶどうが少し大きくなった日に、ぶどうのふくろかけをすることになりました。私は、ぶどうの先生がやったことを真似しながらやってみると、簡単にできました。ずっとやっていると楽しくなってきた、けっこうふくろかけをやりました。

そして、ふくろかけの作業が終わって、ぶどうの場所を見ると、ぶどうの場所が白くて、まるでてるてるぼうずのようでした。

ぶどうがおいしそうに色づいたころ、やつと収穫が始まりました。とても大きくて、おいしそうで、すぐ食べたいくらいです。枝の方を切って箱に入れるという作業だったので、他の仕事よりは、けっこう簡単でした。

ぶどうを持っていくと、ぶどうの甘いにおいがしてきます。私は、ぶどうを食べたいのを、ずっとがまんしながら、無事にぶどうの収穫が終わりました。それから、ついにみんなで作った安芸クイーンが給食に出してきました。一つぶ食べてみると、とても甘くておいしい最高のぶどうでした。来年は食べられないけれど、とても思い出に残るぶどうでした。